

第24回 大書心会ペン字展出品要項

主催
後援

書道教育 大書心会
岐阜県 土岐市 多治見市
岐阜県教育委員会 土岐市教育委員会 中日新聞社
財団法人岐阜県教育文化財団助成事業
財団法人岐阜県教育文化財団

◇財団法人岐阜県教育文化財団助成事業

一、会期

平成二十一年十月九日(金)～十二日(月・祝)
(午前九時～午後五時まで 入場無料)

(九日は午後一時から 十二日は午後四時まで)

一、会場

〒509-5121 岐阜市土岐津町高山4番地
セラトピア土岐 ☎ 0572(54)2120

一、出品資格
一、出品区分

二科審査会員 (師範)
高校生以上

二科審査会員 (師範)
(教範)

一科 (書範～準四段)
二科 (三段～準初段)
三科 (1級～新人)

○前記を除く支局長・支部長・無審査とする

○出品区分については、大書心誌九月号現在の規定・かな
の段級のうち、上位の方を基準にして決定する。

○本会の硬筆部に出品していない場合は、所属団体での資
格を明記の上、相当する区分に出品のこと。
つけペン・万年筆・ボールペン・フェルトペン・竹ペンそ
の他硬筆と認められるもの(筆ペンは除く)

一科審査会員・二科審査会員・特別出品・無鑑査

一、用具

六〇cm×七〇cm以内 (縦横自由)

※いずれのサイズも作品の表装仕上がり(額)の寸法です。

※規定寸法を超えた作品は審査できません。ご注意下さい。

創作、臨書、実用書等自由

一、作品内容

二科審査会員:四、〇〇〇円 一科:三、〇〇〇円
特別出品:四、〇〇〇円 二科:二、五〇〇円
無鑑査:三、五〇〇円 三科:二、五〇〇円

一、作品寸法

一科・二科・三科

一〇〇cm×一〇〇cm以内

一、作品料

二科審査会員:四、〇〇〇円 一科:三、〇〇〇円
特別出品:四、〇〇〇円 二科:二、五〇〇円
無鑑査:三、五〇〇円 三科:二、五〇〇円

一、出品申込

出品申込書に必要事項を記入の上、九月十八日(金)までに
出品料を添えて本部事務局に申込むこと。
※出品申込書は、予め各支局・支部に送付する。個人会員
は本部事務局まで請求のこと。

一、搬入

(A) 展覧会場へ直接搬入する場合(表装済作品)
平成二十一年十月八日(木) 午前九時半～十時半

※可能な方は、直接搬入(時間厳守)にご協力下さい。
(B) 本部へ送付(持込み)する場合(表装済作品)
平成二十一年十月二日(金) 必着

(C) 本部へ表装を依頼する場合
平成二十一年九月十八日(金)までに表装依頼書を本部
に請求の上申込むこと。

一、送り先

〒509-5134 岐阜県土岐市泉島田町一一三〇
書道教育 大書心会

☎ 0572(55)0567(FAX同0558)

一、審査

平成二十一年十月八日(木) 午前十時半から
会長、副会長、一科審査会員(本年度審査員を委嘱)

一、審査員

一科審査会員(三科について、各区分別に審査し、優秀作
品に次の特別賞を授与するほか、出品者全員に賞状・賞品
を授与する)。

大賞・準大賞・会長賞・岐阜県知事賞・土岐市長賞・多治
見市長賞・土岐市教育長賞・岐阜県教育委員会賞・名古屋
市教育委員会賞・土岐市議会議長賞・岐阜県教育文化財団
理事長賞・中日新聞社賞・大書心会賞・理事長賞・師範会
賞・入選

一、作品鑑賞会・授賞式・搬出

平成二十一年十月十二日(月・祝)

○作品鑑賞会(午後一時から)

○授賞式(教育部) 午後二時から 一般部(午後三時から)

○搬出(午後四時から)

※搬出不可能の方には、後日、返送料代引きにて送付する。
作品はすべて未発表のものに限る。

一、その他

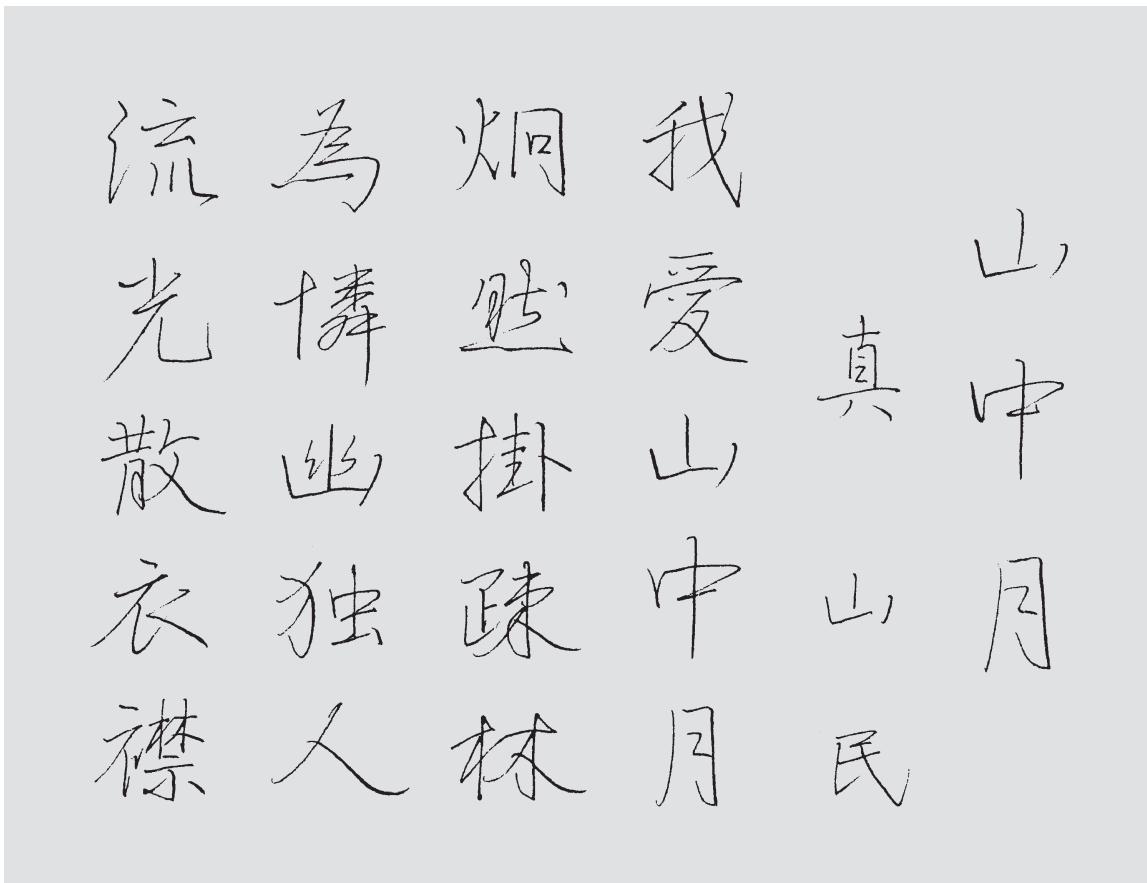
○一人何点出品してもよいが、入賞は一人一点とする。

○上位入賞者の昇段級については別に定める。

○級位の出品者には、一階級進級を認める。

◎作品創りの第一歩として、漢詩を題材に小品を書いてみましょう。書体・構成は自由です。
◎まずは、用紙に対してのバランス、行間・字間、行の中心などを整えて書くことが大切です。

短期特別課題 作品創りを学ぶ



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部＝B5判（二五七mm×一八二mm）以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。（黒色に限る）
- ▼毛筆部＝半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績（毛筆の場合は毛筆漢字の成績）を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

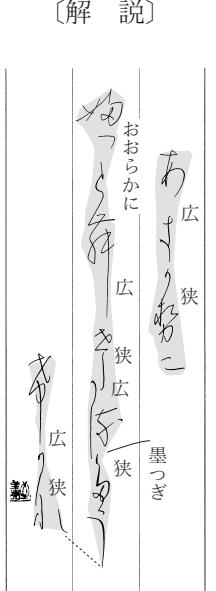
一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

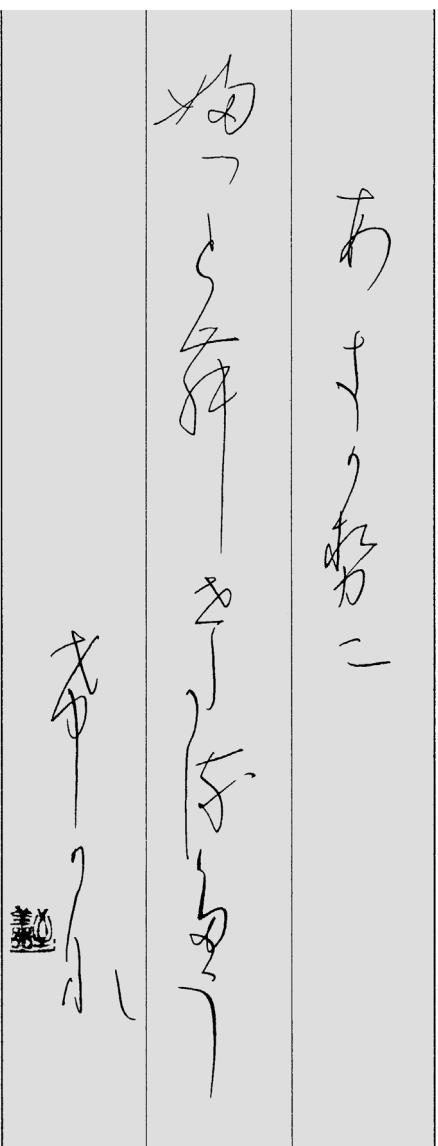
準初段から六段まで

新入から1級まで

[解説]



秋風にふつとむせたる峠かな
あ支可勢二婦世多流多う希可那

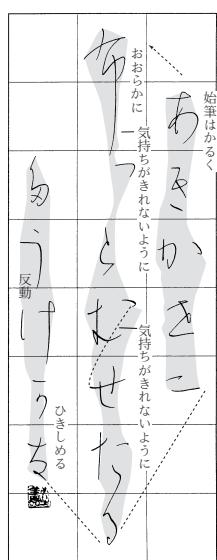


荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

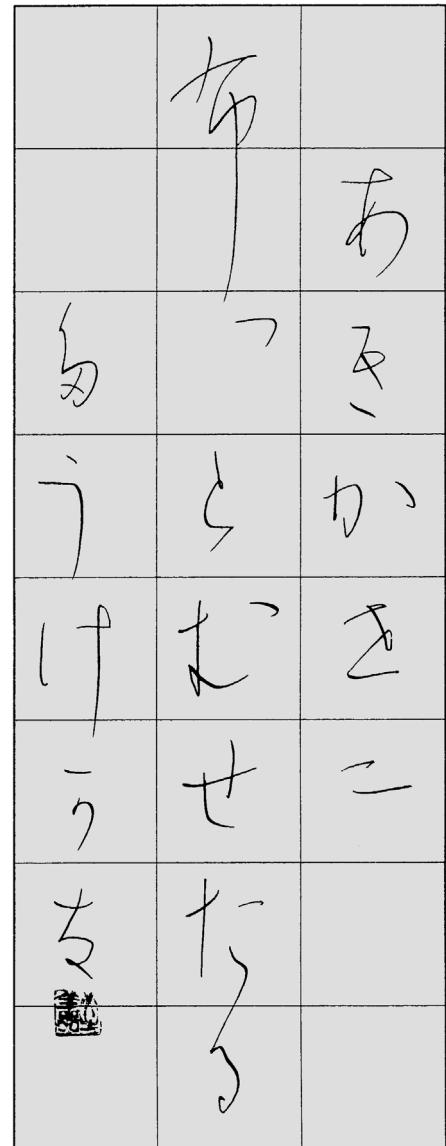
▷用紙=本会段位用紙

[解説]



秋風にふつとむせたる峠かな
あきか世二布 多う可奈

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

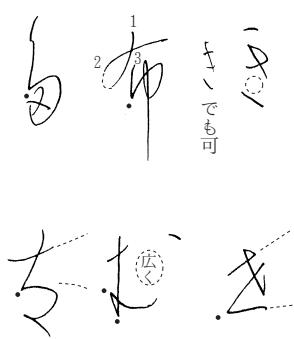
◆10月課題予告

紫陽花や青にきまりし秋のあめ

(正岡子規)

〔段位ワン・ヒント〕
漸増漸減、字間の広狭、連綿には①起筆と終筆が中心線上にある。②反対に中心線上からはずして動きを表現する。③傾斜させて連綿線を短く見せる。④終筆と起筆が一つの線を共有する……
数多くの方法がありますが、一つでもとり入れて書いてみましょう。それをお批評して頂くことで実力がつくのです。それをお自分なりに作る喜びを持ちましょう。これこそ自分の財産なのです。手本通りに書けるようになったら是非二字でも入れ替える事から始めましょう。私は手本ではなくて一つの作例

・転折(あたり)
。起筆は逆筆でも書けるようになります。終筆は紙面からスッとぬくようになります。



〔句意〕山路を登り、峠に至ると草木を吹きわたる秋風、ふつとそのひやかな風にむせたようになつた。従来の秋風の概念を脱した句。
〔級位ワン・ヒント〕
多くの古筆の中であまり飛躍した古筆は避け、基本に近いものから字を集めでとにかく書いてみましょう。又形も大切ですが美しい線にも心して下さい。強い線、軽快な線、時には意識して練習して下さい。

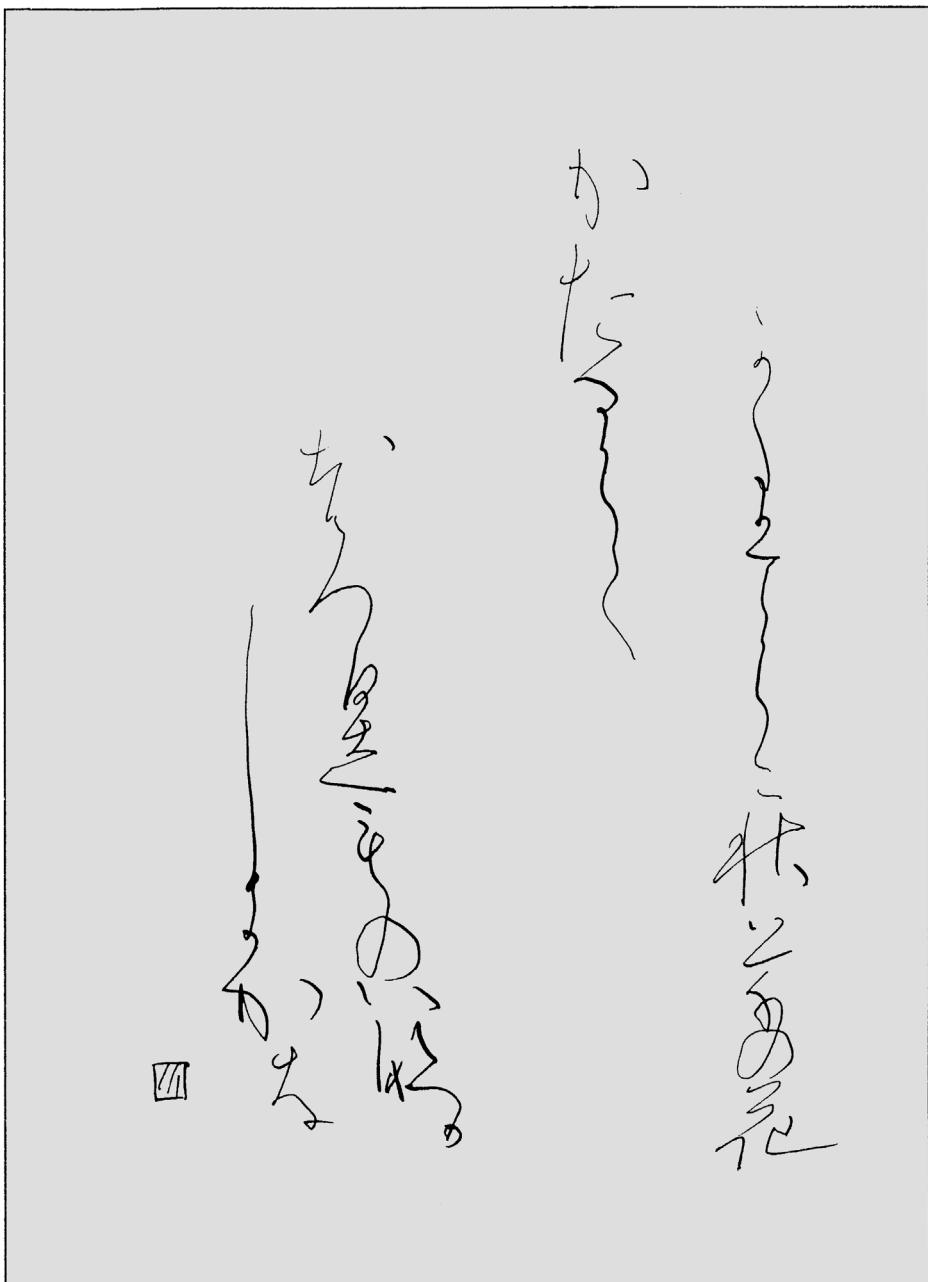
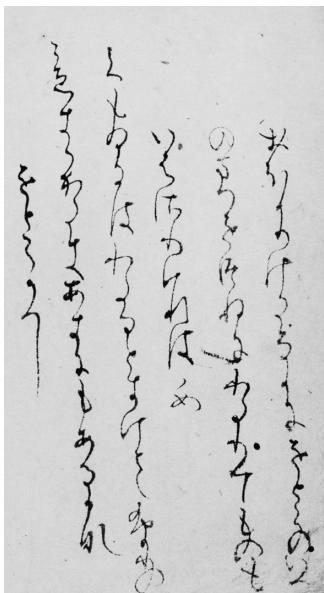
秋風にふつとむせたる峠かな
あきかぜ たうげ 小林一茶

一般部かな課題

師範・教範・書範

〔古筆參考〕

一条摄政集



締切り
九月二十五日（必着）

築瀬舟香書
やなせ しゅうこう しょ

び日
し志か可
も毛た多盤
のははら二
なつ那秋
つかし草の
きかな花か
な奈たるら
かなるらくほ
かな本

〔歌意〕草の上に坐っている私のそばで、風にそよぐ秋草の花が静かに語る声を聴いた。その秋草の花の語ることには、「ほろびてしまつたものは、なんともなつかしいね。」ということだった。
〔出典〕名歌即訳 若山牧水

出典

- ①と⑦、⑤と⑨、⑩と⑧、⑩と⑨、
それぞれ呼応。
- 墨の動きに注意。
○ 大きな間→余白に注意。
↖の方向と、「本」の「、」「か」の
「、」の位置等注意。

四二

一行の文字数が多くなりますと、同じ調子で書いていると変化がなく感動しなくなります。そこで行の中に高潮した部分が必要となるわけです。行の高まりを作るには連綿が密になること線を太くすること、墨が多いように見えることなどです。それが急激ではなく徐々に移行していくのが美しい高まりなのです。

◆
われもこう
10月課題予告

(若山牧水)

締切り 9月25日(必着)

お二人ともお元気ですか。私たち
お孫の事をいつも気にかけて下さり
本当に感謝しています。敬老の日
には、孫三人がお歌とプレゼント
しようと、猛特訓を始めました。
どうぞ、その日をお楽しみに。

お二人ともお元気ですか。私たち
お孫の事をいつも気にかけて下さり
本当に感謝しています。敬老の日
には、孫三人がお歌とプレゼント
しようと、猛特訓を始めました。
どうぞ、その日をお楽しみに。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書でできます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙ははがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具ははがき、横書き課題とともに自由。（黒色に限る）

横書き課題

おか岡じま嶋けい桂せん川書

五節供の一つ「重陽」では不老長寿

を願って菊酒を飲む風習がある。

滋賀県大津市 氏名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

●重陽（ちょうよう）=五節句の一。陰暦9月9日のこと。

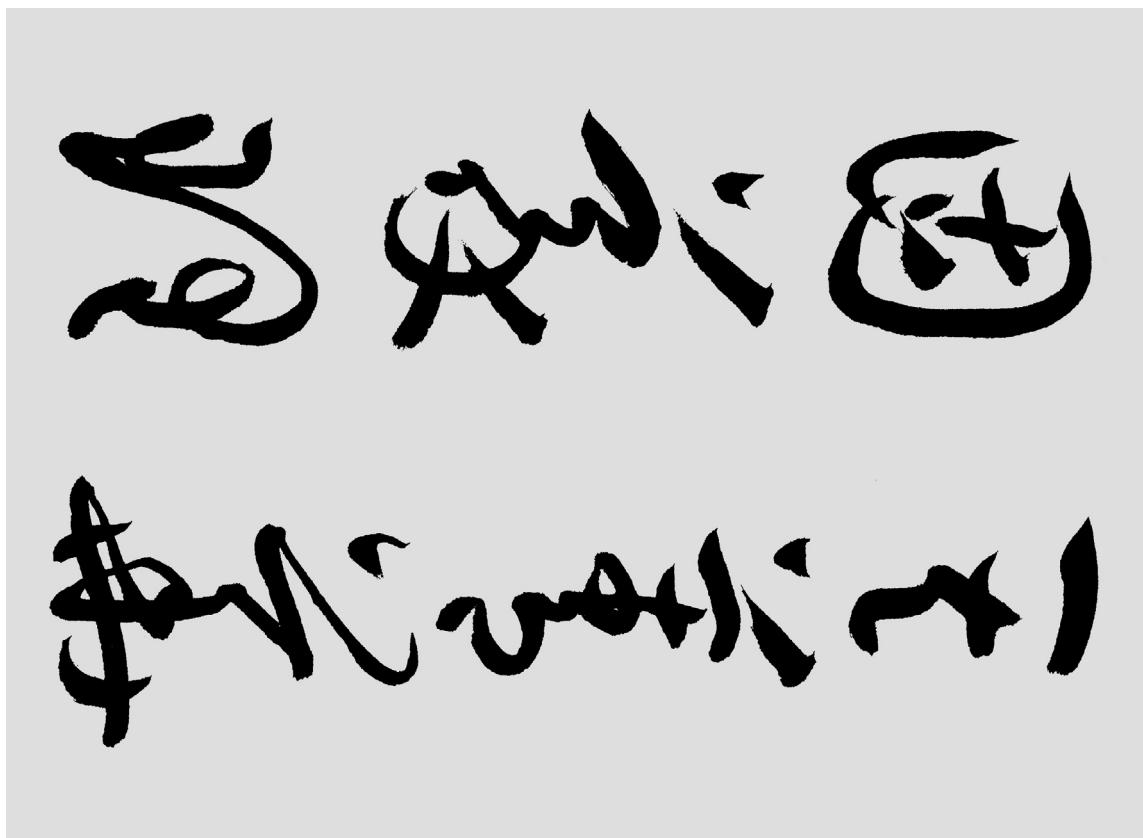
一般部毛筆漢字課題

締切り 9月25日 (必着)

新入から1級まで (楷書)



準初段から師範まで



[出典] 書譜 (687) [筆者] 孫過庭 (649?~688?)

[読み] 其の青華を (掲む。) 固に義理の

[読み] 新月始めて秋に澄む。

[大意] 秋に入りて三日月が始めてきらきらと鏡の如くに見える。

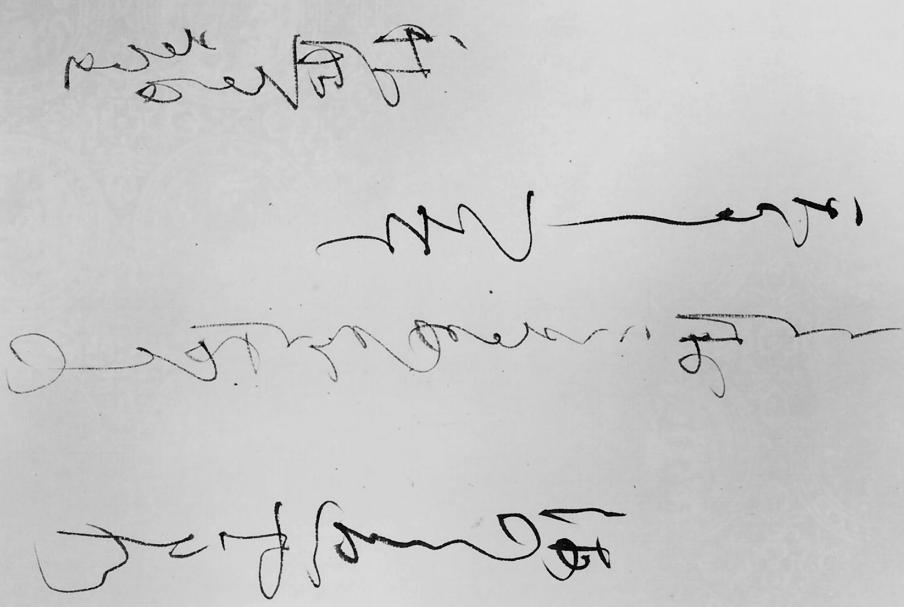
一般部毛筆かな課題

締切り 9月25日（必着）

準初段から師範まで

■西課題とも文字の変換、ちらしは自由です。

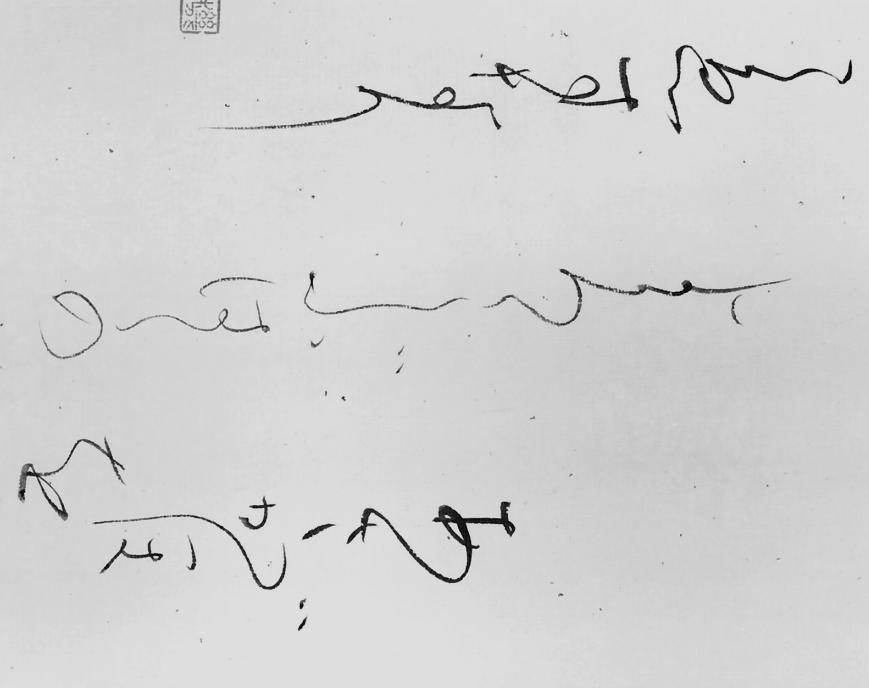
朝顔をよろこぶ母の声すなり



天に沈みて秋照る日なり
海の声山の声みな碧瑠璃の

天に沈みて秋照る日なり
海の声山の声みな碧瑠璃の

印



新入から1級まで

浅井機山先生書

〔出典〕若山牧水

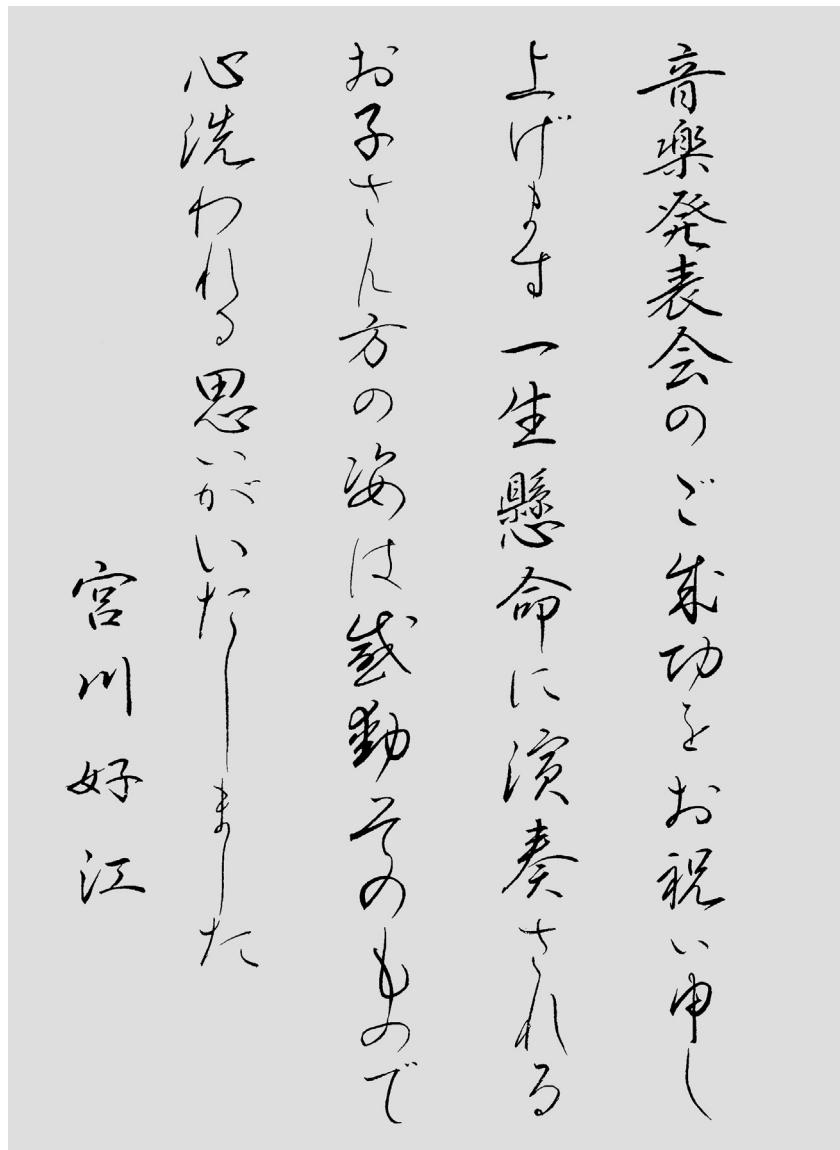
〔歌意〕海の声も山の声も、みな碧瑠璃色に晴れ上がった大空に吸われ
しづまって、さんさんと秋陽の照りかがやく日である。

〔出典〕^{くつわだ}繭田 進

〔句意〕母が丹精をこめた朝顔が見事に開いた。開花をよろこぶ母のは

ずんだ声が聞かれたのである。

一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

大宮 春兆 書

〔古典字例〕



音楽発表会のご成功をお祝い申し上げます。一生懸命に演奏されるお子さんの方の姿は感動そのもので心洗われる思いがいたしました。

(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位(5等)は、評価により毎月変わります)。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

一般部毛筆条幅課題



初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績・
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

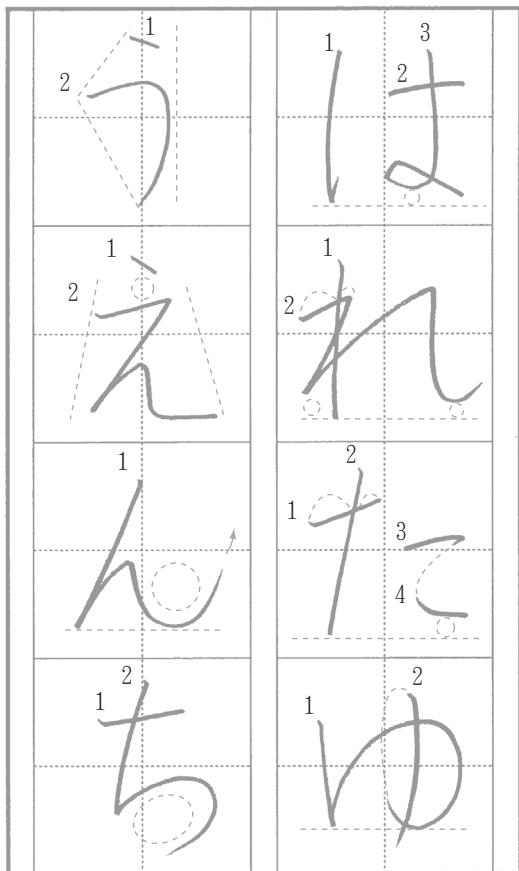
〔大意〕雲上高くに浮かぶ月は一つでも人は千里に別れていい。竹林の中では秋の声を酒壺に聞き友をなつかしむ。

〔新井清泉書〕

〔大意〕雲上高くに浮かぶ月は一つでも人は千里に別れていい。竹林の中では秋の声を酒壺に聞き友をなつかしむ。

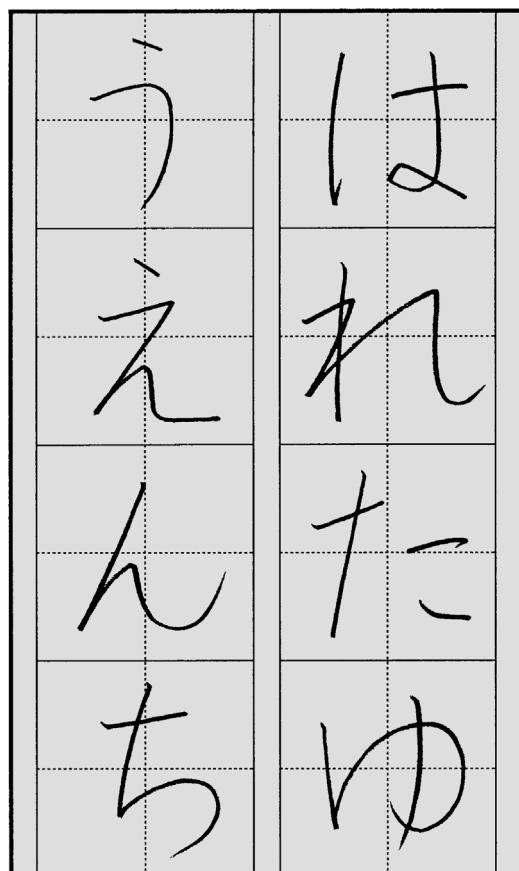
〔新井清泉書〕

〈よつぐ〉自由 (黒色にかぎる)



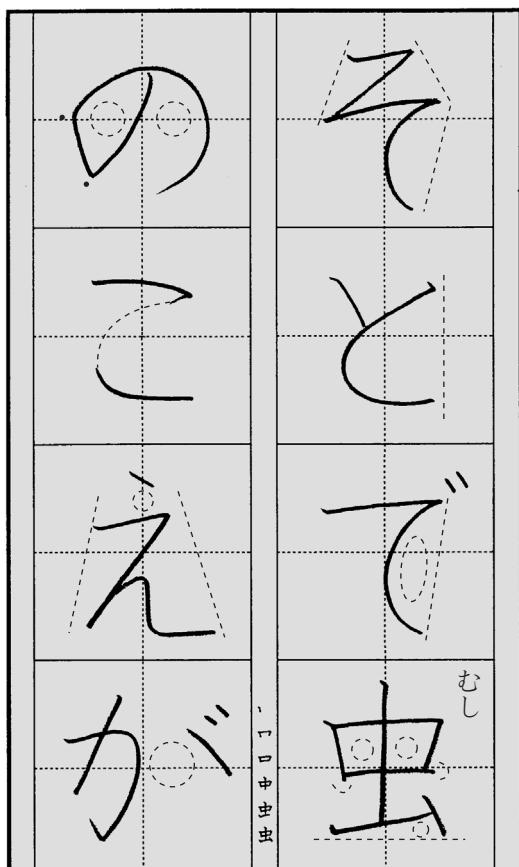
◆ひらがなトレーニング (なぞって書いてみよう)

- ★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
- ★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ う 年

小三年まで
三宅容玉書
ぎょく



新入～1級

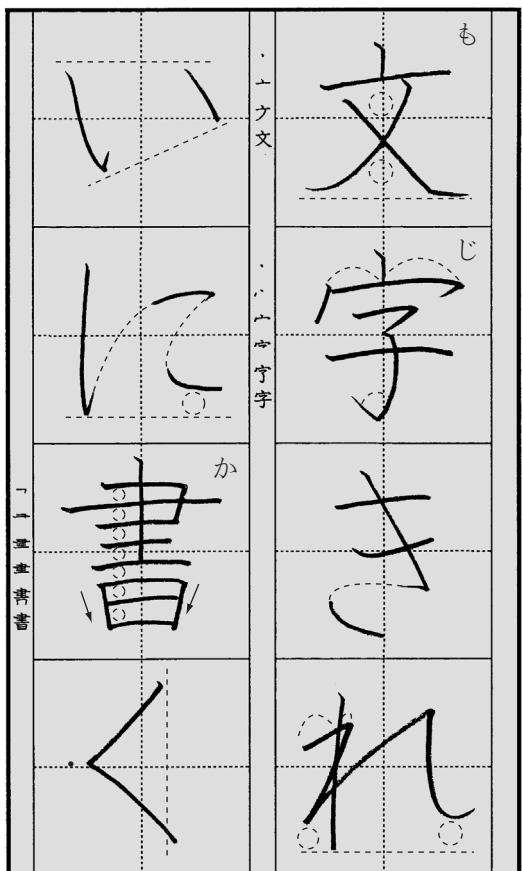
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小 一 年

準初段以上

〈よつぐ〉自由（黒色にかざる）

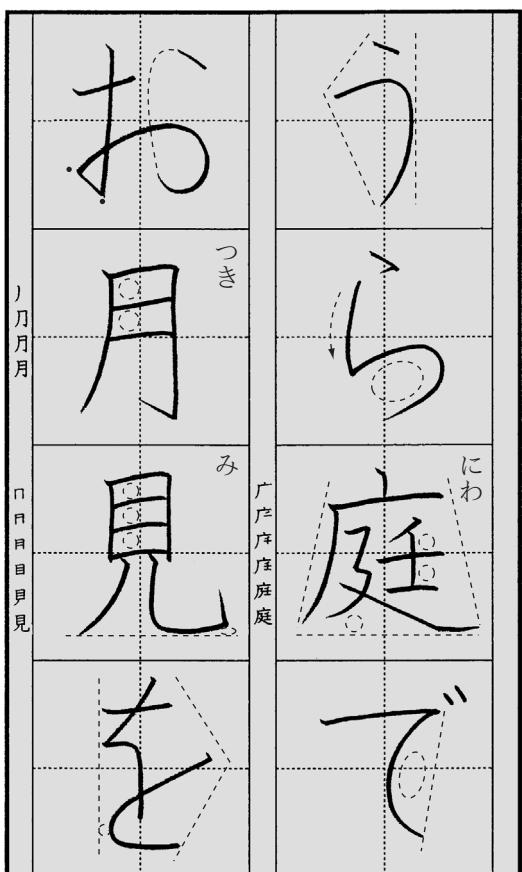


新入社員

小二年



準初段以上



新入級

小三
年



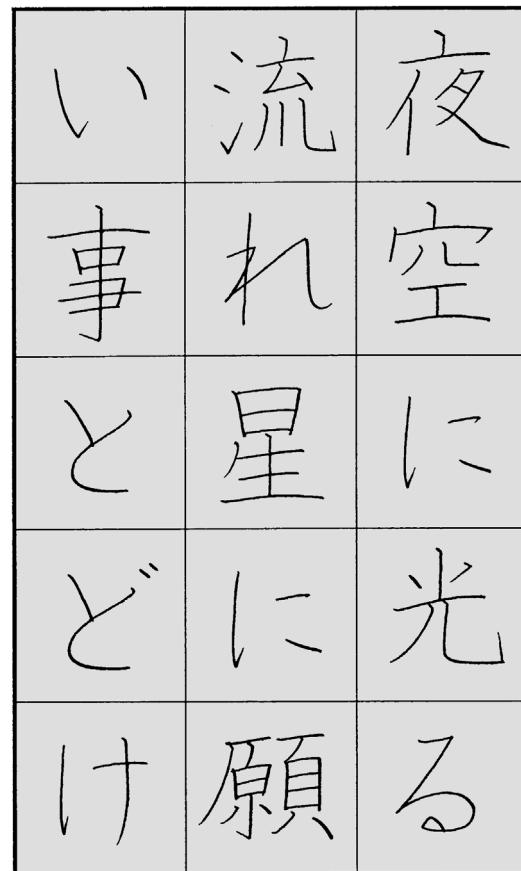
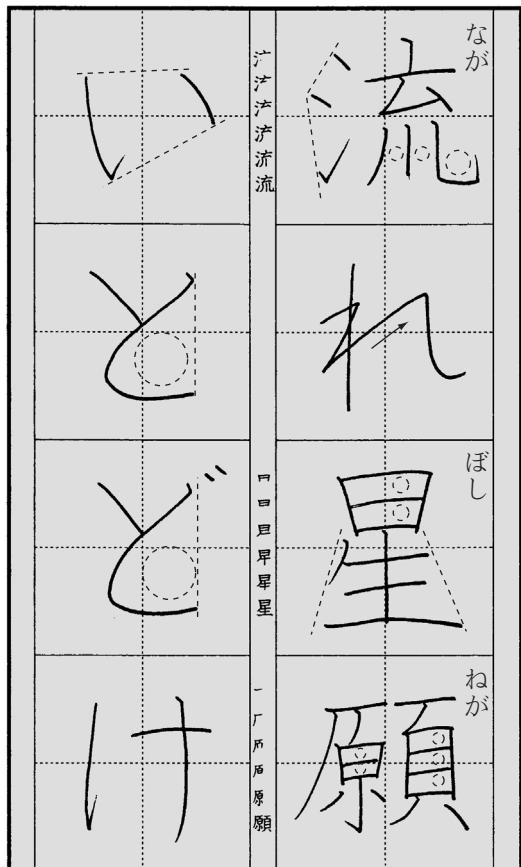
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

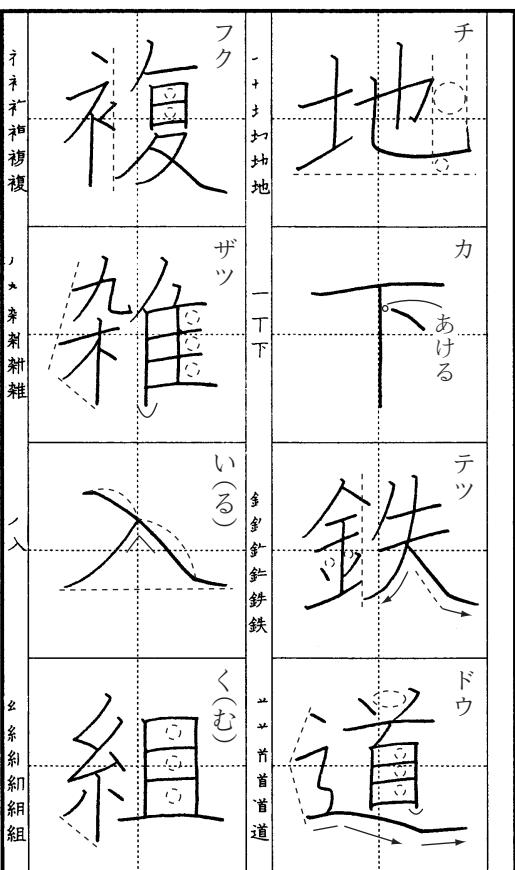
教育部硬筆課題

しめきり 9月25日(必着)

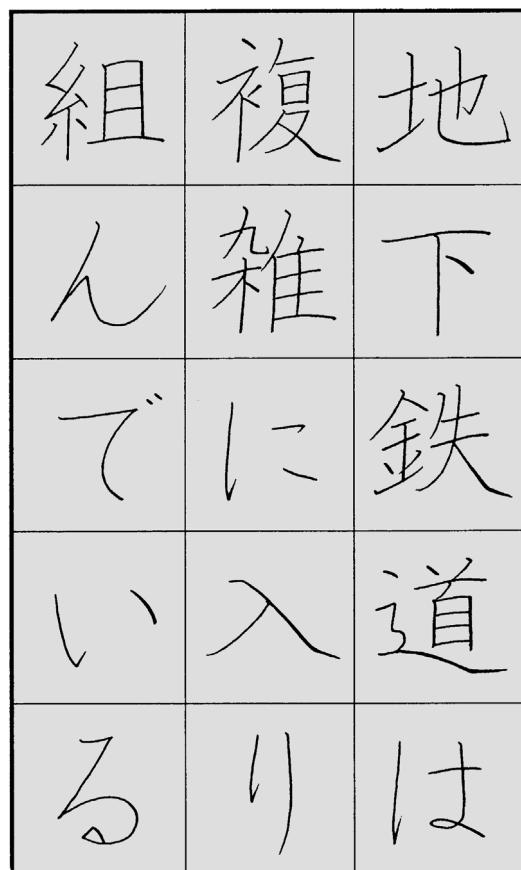
〈用具〉自由(黒色に限る)



準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

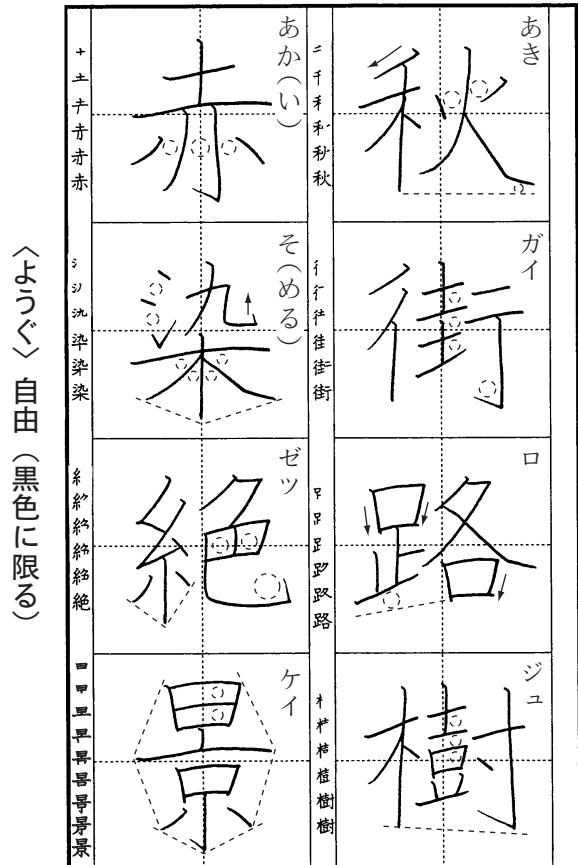


小五年

(全員)

教育部硬筆課題

しめきり 9月25日(必着)



〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

解説(よく見て習いましょう)

く	街	秋
染	路	の
め	樹	夕
絶	を	日
景	赤	は

小六年

(全員)

通	て	情
を	意	報
計	思	交
つ	の	換
た	疎	।

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

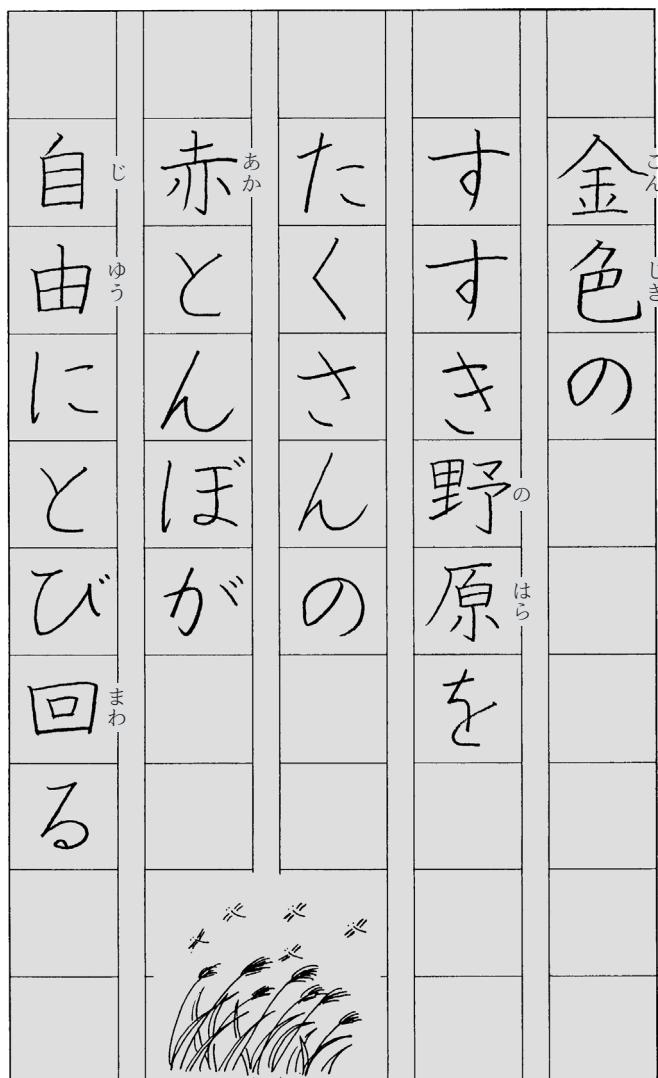
中二・三年 (行書)

な	小	将
る	説	来
の	作	は
が	家	推
夢	に	理

中一年 (行書)

▼小三年以下の課題

ひし
菱
ぬま
沼
こう
光
ほ
歩
書



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 二、四行用紙に書く場合は、文章を收まりよく短くして下さい。
 - 三、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 四、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 五、成績は評価により毎月変わります。
 - 六、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼つていらない方は新入とみなします。



しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いててもよろしい。

▼小四年以上の課題

せき
関
らい
頼
翔
しゅう
書

